

VOL. 32
2023.冬号

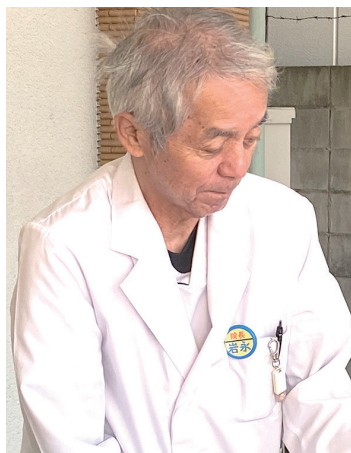
NANAIRO

なないろ



新年のご挨拶

虹の家での4年間を振り返って



院長 岩永 正彦

令和5年 新年あけましておめでとうございます。
 いつまでも新型コロナに気を許せない時代が続きますが、病棟には呼吸器が弱い人が大勢生活しておられますので私達は、利用者さん、ご家族のためウイルスを一匹でも入れない心構えで予防対策を講じています。ストレス、ご不自由をお掛けしますが何卒ご理解とご協力をお願いいたします。
 さて、虹の家も開設して9年目、私が院長に就任して4年目です。虹の家は今春のさらなる発展として8床の増床に向けて工事中です。
 今回は私個人として就職から現在、未来について思うところをこの機会に《起承展結》(not転)の形で述べたいと思います。

起 大学卒業して小児外科を専攻し、出生前に脳神経を含む多発奇形の診断を受けた新生児の手術に立ち会ったこともあります。その後、保健福祉センターで行政医として障がい者に携わってまいりました。その中で当時の国策に抗って(?)、知的障がい児の教育に私財を投げ打って百歳過ぎまで現役として学園を設立運営に取り組みされた教育学者の先生に心を打たれたことを覚えています。

私も甚だ僣越ですが医師としての集大成のつもりで定年退職後の人生の一部を障がい児者に関わろうと虹の家に就職いたしました。

承 私は、若いころから座右の銘としている《無用の用》を虹の家でも実践しているつもりです。この言葉は、まず器を思い浮かべてください。器ではどの部分が最も大切だと思いますか?。それは決して目立たない無の存在である器の空間の部分です。この空間が無ければ器として成り立たず、無用と思われながら実は最も重要な役割を

果たしているという意味です。臨床医としての期間は短く特筆すべき専門性に乏しい私ですが、決して目立つことなく毎日、傍から見ると利用者さんと遊んでいると見えるかもしれませんが、これは私流のコミュニケーション法で、友達として遊びながら反応を見て各人の健康観察を行い、一方、利用者さんには楽しさを感じてもらっているのではないかと思います。

展 楽器については過去のなないろ(第28号)にも掲載しましたが、虹の家に就職した時の初心を忘れず、音楽で楽しんでもらおうと思い立ち、楽器が好きな職員4、5人を募り毎週1回ミニコンサートを始めました。私もメンバーの一人として参加しました。さらに発展させようと思い、外部から達人(市役所の旧知の職員)を招いてコラボコンサートを計画しました。ところが、本番を1週間後に控えた時に新型コロナの第一波が襲来し、ご家族を含めて外部の人の立ち入りを禁止するという方針となり、コンサートは

無期延期となった状態となりました。新型コロナを克服した暁には是非実現したいところです。

結 発展途上ですので、結論はまだ出ません。アップル社創設者のスティーブジョブズ(故人)が講演や挨拶などでよく引用して、大切にしていた言葉に「空腹であれ! 愚かであれ!」というのがあります。愚かであれ!とは本来の意味に加えて私なりに自分は無知である!自分が持っているものを相手は持っている!と解釈しています。常にこのような謙虚な態度で接すれば傲慢や奢りはなく、決して目立たない存在ながら《無用の用》に通じる言動に繋がると思います。

結論として、将来退職する時には微力ながら利用者さんにご家族に何らかの貢献をして虹の家の歴史の1ページに足跡を残せたと振り返られるよう頑張りたいと思います。

療養部課長就任のご挨拶

ひとりでも多くの笑顔を

療養部課長 宮崎 アトム



1979年9月、デコポン専業農家の長男として熊本県葦北郡に生を受けました。高校卒業後、家業の手伝いに加え、親戚の建設業を4年間経験。海水浴で有名な地元でしたので、いろいろ体験したマリンスポーツの中でもウェイクボードが得意で、冬はスノーボードもしておりました。他、旅行やキャンプが趣味です。

経歴・実績

- 平成10年3月 ● 熊本県立水俣高等学校卒業
- 平成14年4月 ● 22歳の時に熊本県八代市の看護学校へ入学。整形外科病院と救急外来のバイトをしながら学生時代を過ごす。
- 平成19年4月 ● 池友会 福岡和白病院へ正看護師として入職。循環器病棟を4年間経験し、CCU(心疾患集中治療室)へ異動し4年。その頃1年間、東京都府中市の榊原記念病院へ心疾患看護の修行へ出向。帰郷し役職の拝命を受け、再度循環器病棟へ異動し4年。新入職員の教育や、部署の業務改善などの運営を担当しました。
- 平成30年 ● 看護師長を拝命。令和元年、脳神経外科病棟へ異動となった。周術期から亜急性期を経る入院患者様を、MSWと共に後方支援に携わっていく中で、介護や社会福祉制度について知識、経験が増え救急医療だけではなく継続看護の重要性を認識するようになった。
- 令和3年 ● 障がい児者医療、福祉を展開している虹の家の紹介を受ける。
- 令和4年7月 ● 社会福祉法人あきの会 虹の家への入社。

入職し間もない時期ではありますが、人口に占める障がい児者の多さや、在宅でサービスを待ってられる方の多さを目の当たりにしております。

障がい児者福祉支援は福岡のみならず、日本全体がさらに発展していくべきであると考えます。「ひとりでも多くの笑顔を」をモットーに、虹の家が手を差し伸べられることはたくさんあると思っております。そのために療養部全体の業務効率の工夫と新たなシステム作りを推進し、訪問支援も視野に入れた拡充を実現させていくと共に、親なき後のターミナルケアを含め病院・医療の壁を越えた家族支援をお届けできるように、これから日々精進していきたいと思っております。

今後とも、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

シリーズ療育 PART5

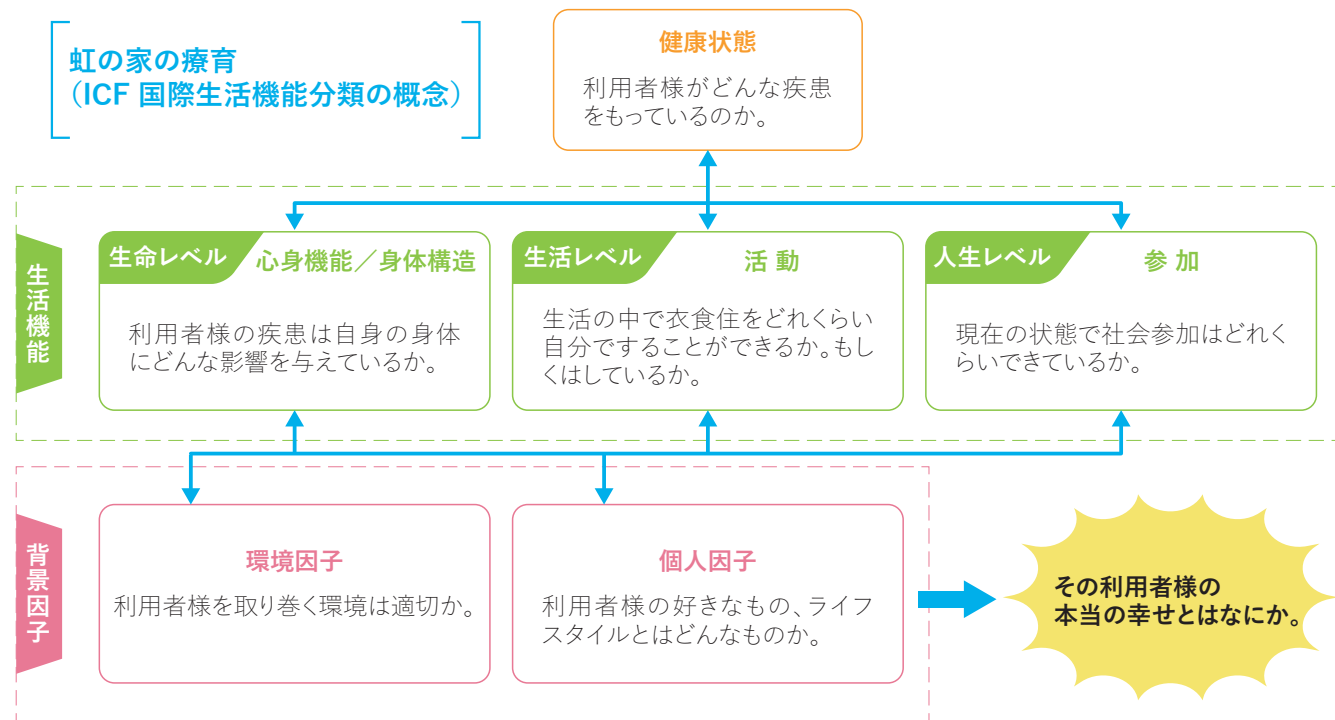
虹の家が取り組む療育について

これまで、療育シリーズにて活動をメインに取り上げてきましたが、そもそも「療育」という言葉の意味は幅広く明確に記したものは少なく思えます。虹の家では「療育」を出来るだけ明確に職員に理解してもらうため年に2回講義を行っています。その中でいつも伝えているのは「療育」=「活動」だけではないということです。虹の家の療育は2001年WHO(世界保健機関)で採択されたICF(国際生活機能分類)の考え方が基になっています。このICFは対象者の健康状態、心身機能・構造、活動、参加、環境因子、個人因子の6項目が双方向性で作用していることを示すものです。すなわちこれらの項目に対象者の状態を当てはめていくとその方の疾患の状態に伴う心身機能や福祉環境、家族背景、習慣、性格を含めたより詳しい全体像をより明確に把握できます。それによって、意思疎通が困難な方であっても、その方にとっての幸せは何なのを考えることができます。虹の家が目指すものは重度の障がいがあっても、できることは自分で、レク・地域交流、趣味活動などを意味する「活動」と「参加」の機会を提供する又は持続してもらうことです。重度の障がいを持つ利用者様は

それぞれの状態にもよりますが、免疫力や取り巻く環境によって急に「活動」と「参加」の提供は難しいことが多いと考えます。そのために虹の家は医師、看護師、薬剤師、リハビリで行う「医療」そして支援員や今述べた医療職で行う「福祉」の力を総動員しそのチームアプローチによってICFでいう「活動」と「参加」に利用者様方がたどり着けるように支援を行っています。「活動」と「参加」の頻度を上げるということはいわば利用者様にとっての人生を豊かにする「生きがい」や「やりがい」などQOL(生活の質)の向上を意味します。それは利用者様単独という考え方でなく、利用者様の周りの私たちをはじめとする人とのつながりも意味します。利用者様の「活動」や「参加」の機会が増え、その方らしいいきいきとした豊かな生活や人とのつながりが増え様々な経験を育め、利用者様が人生を全うできるように私たち虹の家は日々努力していきます。



理学療法士 岡本 慎平



デリソフターの導入 やわらか食の取り組み

食事は生きていく上で必要な日常行為であると同時に楽しむ余暇活動である。しかし、加齢に伴う機能低下や脳機能の障がい、発達障がいにより安全性を優先し食形態を変化させることは現場では当たり前のように行われています。口腔機能や嚥下機能に合わせた食形態は確かに安全であり、窒息や誤嚥性肺炎を予防する上で欠かせない配慮になります。しかし、そこに食事を『楽しむ』という利用者様の想いに焦点が当たることは少ないと感じています。

担当:理学療法士 中川 智久

デリソフターの効果

今回、導入したデリソフター(図1)は圧力と蒸気力、そしてデリカッター(隠し包丁を入れる器具)で調理した料理の見た目を変えることなく柔らかくすることを可能にします。食事はまず目で見ることから始まります、見た目が変わらないので食べている物の認知が容易でQOL(生活の質)を保つことができます。虹の家では副食を常食・一口大・マッシュ・ムース・ペーストの5種を提供しています。現在、一口大とマッシュの間に『軟菜』(図2)という形態をこのデリソフターを使用して提供しています。リハビリスタッフが一口大を提供しているが嚥下や咀嚼、口唇、舌、下顎、姿勢、呼吸の状態・機能を総合的にみて『軟菜』向きと判断した利用者様に対し提供しています。



左:デリソフター使用したリンゴ
右:カットしただけのリンゴ



今後は短期入所や生活介護の在宅利用者の家族指導にも活用したいと思っています。また、お菓子パーティーやデザートブッフェ等のイベントも計画しています。これからも食の『安全』を意識しながら『楽しみ』も大事にして、利用者よし・家族よし・スタッフよしの『三方よし』の食事サービスを提供していきたいと思えます。この場をお借りして私がこのデリソフターと出会うきっかけを作ってくださった、お子様が虹の家利用者でもあり、NPO法人福岡市笑顔の会代表理事でもある渡辺めぐみさんに感謝を申し上げます。



デリソフターとの出会いの場

食事の5期モデル(先行期・準備期・口腔期・咽頭期・食道期)の中で口腔期は硬さある物をどう処理して唾液と混ぜ食塊を形成するのかのフェーズになります。奥歯で咀嚼やすすり潰しをそんなに必要とせず、舌の押しつぶしや歯茎でのすり潰しで処理が可能となり結果

- 食事介助の時間が前より短くなった。
- 口からこぼれるのが減った。
- 食べやすそうにしている。



スタッフからの声

イベント

ハロウィン お菓子作り



ランチ会

日中活動の一環で、好きな仲間と特別なランチを楽しむ会を定期的に行っています。10月のランチ会は、仲良し3人組で「瓦そば」ランチを楽しみました。



餅つき大会

餅つき大会を行いました。今年も昨年同様密を防ぐため、ボランティアなしで職員だけで頑張りました。新型コロナの第8波の真ただ中、感染対策を行い、入所と通所を分け実施しました。ミニマムな餅つきではありましたが、皆さんの最高の笑顔が来年に光をもたらすものとなりました。



12/20
Tue

第2回インクルーシブフェスタ

令和健康科学大学体育館で第2回目のインクルーシブフェスタを開催しました。今回は、福岡和白病院と香椎ヶ丘リハビリテーション病院、健診クリニックによる体力測定や健康診断が行われ地域の皆さんが多く参加いただきました。ポッチャ大会は大学生チームや障がいチームなど全15チームが参加しました。優勝は列島会チームで準優勝は令和健康科学大学チームでした。虹の家・みかんの樹の皆さんも頑張りました。



11/12
Sat

NANAIRO

寄附のお礼

家族グループ「ゆうらいぶりい」様より寄附金をいただきました

寄附金は利用者様の活動に役立てて参ります。ありがとうございました。

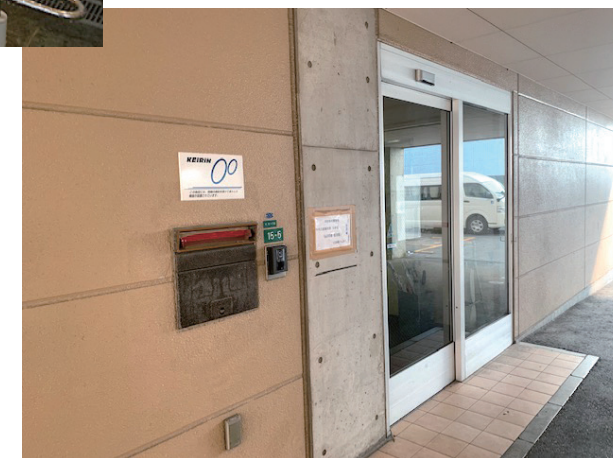


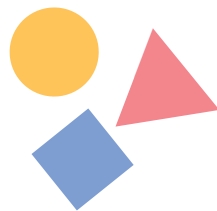
公益財団法人JKAから ミスト浴の補助金を いただきました



虹の家弐番館

令和2年新型コロナの感染をうけ、短期入所を継続できるよう虹の家弐番館を開設しました。もともとあった高齢者施設の浴室をそのまま使用しており、重度な方の入浴介助が大変な状況でした。ミスト浴の機械が入り、介助が楽になっただけでなく、利用者の皆さんも大変気持ちよく入浴ができるようです。補助金をいただきまして、心より感謝申し上げます。





社会福祉法人
あきの会

<http://akinokai.jp/>

虹の家

障がい児者医療生活支援ホーム

〒812-0044 福岡市博多区千代一丁目15番10号

TEL/092-651-7325 FAX/092-651-2420

みかんの樹

〒811-0101 福岡県粕屋郡新宮町原上1223-4

TEL/092-962-0585 FAX/092-962-0527



Instagram